

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29年度

1補助金名称	体育文化振興補助金				2担当課名	学校教育課							
3予算科目	款	10	項	1	目	3	事業コード	1006					
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無		開始		H17以前	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	無		例規名称		(裾野市体育・文化振興補助金交付内規)								
6性質別分類①	d市単独助成				7性質別分類②	b事業費補助							
8交付先分類	c特定団体(その他)												
9交付先	個人(東部大会以上に出場した中学生)												
10補助金の目的	東部地区大会以上出場者に、大会の遠征費を補助し、負担軽減を図る。												
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	保護者の費用負担が軽減される。												
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	東部大会以上の大会に出場する												
13積算根拠の有無	有												
14積算の考え方 計算式	開催地までの交通費・宿泊費を実績に基づき支給。												
15補助対象経費の設定の有無	無												
16補助対象経費の内容	交際費	×	慶弔費	×	飲食費	×	懇親会費	×	積立金	×			
その他補助対象の項目													
17団体等の構成員数	27年度	28年度	補足										
団体	—	—											
人数	—	—											
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)								
	27年度	28年度	29年度	補足									
国・県支出金	0	0	0										
その他補助金	0	0	0										
一般財源	2,433	2,214	2,150										
合計	2,433	2,214	2,150										
19団体・事業の財務内容	27年度	28年度	補足										
補助金	市	—	—										
助成金	その他	—	—										
事業収入	—	—											
会費(自己負担等)	—	—											
繰越金	—	—											
その他	—	—											
合計	0	0											
市の補助金の割合													

補助金名称	体育文化振興補助金	担当課名	学校教育課
-------	-----------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか (ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	体育文化振興補助金	担当課名	学校教育課
-------	-----------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	×	終期設定していない 今後状況を見ながら見直していく。
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確 になっているか	×	交付要綱作成中
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の 補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分 の1以内になっているか	×	実績額に基づいて支給。
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額 は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	保護者の費用負担が軽減される。
2達成状況	

3補助効果の評価	a十分効果をあげている
4評価の理由	対象生徒への十分な補助ができている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	a現行のまま継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由	遠征費用などを補助する制度として部活動振興の一助にもなっているため。	見直しの内容	
		見直しの時期	
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29年度

1補助金名称	児童生徒遠距離通学費補助金			2担当課名	学校教育課								
3予算科目	款	10	項	1	目	3	事業コード	1006					
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無		開始		H17以前	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	有		例規名称		裾野市立小中学校児童生徒遠距離通学費補助金交付要綱								
6性質別分類①	d市単独助成			7性質別分類②	b事業費補助								
8交付先分類	d不特定団体及び個人												
9交付先	個人(遠距離通学該当者)												
10補助金の目的	遠距離旅客バス等による通学児童生徒の通学費を補助し、通学費に対する保護者の負担軽減を図る。												
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	保護者の費用負担が軽減される。 学校から離れた地域に住んでいる児童生徒の公共交通の利用を促進する。												
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	遠距離通学(バス通学)する												
13積算根拠の有無	有												
14積算の考え方 計算式	小学生…利用する旅客バス区間の片道距離から3kmを控除した距離に相当する旅客バス定期代 中学生…中学校生徒にあつては、利用する旅客バス区間の片道距離から5kmを控除した距離に相当する旅客バス定期代 ※いずれも8月は除く												
15補助対象経費の設定の有無	無												
16補助対象経費の内容	交際費	×	慶弔費	×	飲食費	×	懇親会費	×	積立金	×			
その他補助対象の項目													
17団体等の構成員数	27年度	28年度	補足										
団体	—	—											
人数	—	—											
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)								
	27年度	28年度	29年度	補足									
国・県支出金	0	0	0										
その他補助金	0	0	0										
一般財源	1,733	2,210	2,430										
合計	1,733	2,210	2,430										
19団体・事業の財務内容	27年度	28年度	補足										
補助金	—	—											
助成金	—	—											
事業収入	—	—											
会費(自己負担等)	—	—											
繰越金	—	—											
その他	—	—											
合計	0	0											
市の補助金の割合													

補助金名称	児童生徒遠距離通学費補助金	担当課名	学校教育課
-------	---------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	△	補助金の対象者が限定されている。
④市民ニーズが高い事業か	△	市全体でみるとニーズは高くないが、遠距離通学者にとっては有益な制度である。
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか (ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	児童生徒遠距離通学費補助金	担当課名	学校教育課
-------	---------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	×	終期設定していない 今後状況を見ながら見直していく。
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確 になっているか	○	「裾野市立小中学校児童生徒遠距離通学費補助金交付要 綱」にて定められている。
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の 補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分 の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額 は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待さ れる効果・目標 (アウトカム、アウトプ ット、具体的な数値等)	保護者の費用負担が軽減される。 学校から離れた地域に住んでいる児童生徒の公共交通の利用を促進する。
2達成状況	

3補助効果の評価	a十分効果をあげている
4評価の理由	対象児童生徒への十分な補助ができている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	a現行のまま継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由	遠距離通学をしている児童生徒の 公共交通機関利用を補助するも のとして有益な制度である。	見直しの内容	
		見直しの時期	
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の 内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29年度

1補助金名称	静岡県立御殿場特別支援学校教育振興会補助金			2担当課名	学校教育課			
3予算科目	款	10	項	1	目	3	事業コード	1006
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無					
	開始	H17以前	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	無		例規名称	0				
6性質別分類①	d市単独助成			7性質別分類②	a運営費補助			
8交付先分類	c特定団体(その他)							
9交付先	御殿場特別支援学校教育振興会							
10補助金の目的	御殿場市・小山町・裾野市の2市1町を学区とする御殿場特別支援学校の教育振興を図る。							
11補助金により期待される効果・目標(アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	御殿場特別支援学校の教育振興。							
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	教材等の充実を図る事業 児童生徒の福祉、教育奨励、補助事情							

13積算根拠の有無	無							
14積算の考え方 計算式	御殿場市・小山町・裾野市 各自治体50,000円負担。							

15補助対象経費の設定の有無	不明									
16補助対象経費の内容	交際費	×	慶弔費	×	飲食費	×	懇親会費	×	積立金	×
その他補助対象の項目										

17団体等の構成員数	27年度	28年度	補足
団体			人数=役員数
人数	18	18	

	決算		予算	(千円)
18市の補助金の財源	27年度	28年度	29年度	補足
国・県支出金	0	0	0	
その他補助金	0	0	0	
一般財源	50	50	50	
合計	50	50	50	

19団体・事業の財務内容	27年度	28年度	補足	
補助金	市	50	50	
助成金	その他	600	600	
事業収入		650	650	
会費(自己負担等)		0	0	
繰越金		0	0	
その他		0	0	
合計		1,300	1,300	
市の補助金の割合		4%	4%	

補助金名称	静岡県立御殿場特別支援学校教育振興会補助金	担当課名	学校教育課
-------	-----------------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか (ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	静岡県立御殿場特別支援学校教育振興会補助金	担当課名	学校教育課
-------	-----------------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	×	終期設定していない 今後状況を見ながら見直していく。
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確 になっているか	○	平成29年12月9日付け要綱作成済み。
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の 補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分 の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額 は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	御殿場特別支援学校の教育振興。
2達成状況	

3補助効果の評価	a十分効果をあげている
4評価の理由	各市町で補助金を負担し、御殿場特別支援学校の円滑な運用の一助となっている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	a現行のまま継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由	御殿場特別支援学校の校区となっている、御殿場市・小山町・裾野市の2市1町で足並みをそろえ進めていく必要がある。	見直しの内容	
		見直しの時期	
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29年度

1補助金名称	地区小運動場設置補助金				2担当課名	生涯学習課		
3予算科目	款	10	項	6	目	1	事業コード	1090
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無					
	開始	S54	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	有		例規名称		地区小運動場設置補助金交付要綱			
6性質別分類①	d市単独助成				7性質別分類②	b事業費補助		
8交付先分類	a区・自治会(自主防災会含)							
9交付先	区							
10補助金の目的	市民スポーツの推進							
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	各地区のスポーツ活動の活性化							
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	区民のスポーツ活動等							
13積算根拠の有無	有							
14積算の考え方 計算式	借地料の1/3で最高20万円 整備料の1/2で最高20万円							
15補助対象経費の設定の有無	無							
16補助対象経費の内容	交際費		慶弔費		飲食費		懇親会費	積立金
その他補助対象の項目								
17団体等の構成員数	27年度	28年度	補足					
団体								
人数								
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)			
	27年度	28年度	29年度	補足				
国・県支出金	0	0	0					
その他補助金	0	0	0					
一般財源	838	796	1,000					
合計	838	796	1,000					
19団体・事業の財務内容	27年度	28年度	補足					
補助金								
助成金								
市	-	-						
その他	-	-						
事業収入	-	-						
会費(自己負担等)	-	-						
繰越金	-	-						
その他	-	-						
合計	0	0						
市の補助金の割合								

補助金名称	地区小運動場設置補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	△	設置された区域の市民に対しては、身近な身体活動の場として貢献している
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか(ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	△	区によっては、補助金の規格にあった運動場を確保できないこともあり、補助金を利用できない区もある
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	地区小運動場設置補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	×	性質上、終期設定はなじまない
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確になっているか	○	
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	△	区の自主財源は区費等が主体となっている。運動場の区民利用については無料が多い
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	各地区のスポーツ活動の活性化
2達成状況	毎年市内10地区へ借地料について交付している。 整備費はH27に1件

3補助効果の評価	b一定の効果をあげている
4評価の理由	定期的な活動のほか、個々に利用する姿も見受けられ、効果は得られていると考える

(7) 今後の方向性

今後の方向性	b見直した上で継続
--------	-----------

「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	将来的には身近な運動拠点の確保の観点や多角的に利用される現状を考慮し、対象運動場の規格など、多くの区が補助を活用できるよう改正が必要になると考える。また、区への交付金への統合も研究の対象となる
		見直しの時期	未定

「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29 年度

1補助金名称	地区体育館設置補助金				2担当課名	生涯学習課							
3予算科目	款	10	項	6	目	1	事業コード	1090					
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無		開始		H1	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	有		例規名称		地区体育館設置事業補助金								
6性質別分類①	d市単独助成				7性質別分類②	b事業費補助							
8交付先分類	a区・自治会(自主防災会含)												
9交付先	区												
10補助金の目的	市民スポーツの推進												
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	各地区のスポーツ活動の活性化												
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	区民のスポーツ活動等												
13積算根拠の有無	有												
14積算の考え方 計算式	借地料の1/2で最高20万円 整備料(設置年度に限る)最高40万円												
15補助対象経費の設定の有無	無												
16補助対象経費の内容	交際費		慶弔費		飲食費		懇親会費		積立金				
その他補助対象の項目													
17団体等の構成員数	27 年度	28 年度	補足										
団体													
人数													
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)								
	27 年度	28 年度	29 年度	補足									
国・県支出金	0	0	0										
その他補助金	0	0	0										
一般財源	0	0	0										
合計	0	0	0										
19団体・事業の財務内容	27 年度	28 年度	補足										
補助金													
助成金													
市	-	-											
その他	-	-											
事業収入	-	-											
会費(自己負担等)	-	-											
繰越金	-	-											
その他	-	-											
合計	0	0											
市の補助金の割合													

補助金名称	地区体育館設置補助金	担当課名	生涯学習課
-------	------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	×	対象施設がなく、実績が現在ない。新たに区が体育館を設置することはほぼないと考えている
③広く市民生活の向上に貢献するか	×	実績がないため、貢献していない
④市民ニーズが高い事業か	△	身近に運動の場を求める傾向はあるが、学校体育館の開放がその役割を果たしている
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか(ある→○、ない→×)	△	現在設置している区はなく影響はない。新規に設置するときの補助金がなくなるが、影響は少ない
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	×	対象施設がないため、最適とは言えない
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	△	補助を受けている区がない
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	△	補助を受けている区が現在ない。設備費については実績もない。

補助金名称	地区体育館設置補助金	担当課名	生涯学習課
-------	------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	×	性質上、終期設定はなじまない
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確 になっているか	○	
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の 補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分 の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額 は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	△	区の自主財源は区費等が主体となっている。現在運営して いる地区体育館はない
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待さ れる効果・目標 (アウトカム、アウトプ ット、具体的な数値等)	各地区のスポーツ活動の活性化
2達成状況	地区体育館は現在存在しない。

3補助効果の評価	c効果が疑問である
4評価の理由	実績がなく評価できない

(7) 今後の方向性

今後の方向性	c廃止する		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	
		見直しの時期	
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由	現状では対象になっている施設はなく、屋内での運動は学校開放事業が主体となっている。また、今後、区が運動単独目的で体育館を設置する可能性は少ない	その他の内容	
廃止の時期	補助金の実績があった年から5年後		

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29 年度

1 補助金名称	裾野市青年団体連絡協議会補助金				2 担当課名	生涯学習課		
3 予算科目	款	10	項	5	目	1	事業コード	1058
4 現在考えている事業期間	終期設定の有無		無					
	開始	H10	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5 根拠例規の有無	有	例規名称 裾野市社会教育振興事業費補助金交付要綱						
6 性質別分類①	d市単独助成				7 性質別分類②	b事業費補助		
8 交付先分類	c特定団体(その他)							
9 交付先	裾野市青年団体連絡協議会							
10 補助金の目的	青少年の健全育成							
11 補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	青年団体の交流による団体及び地域の活性化 【目標】構成団体3団体以上							
12 補助対象者・団体等が補助金で行う活動	構成団体運営費							
13 積算根拠の有無	無							
14 積算の考え方 計算式	定額							
15 補助対象経費の設定の有無	無							
16 補助対象経費の内容	交際費		慶弔費		飲食費		懇親会費	積立金
その他補助対象の項目								
17 団体等の構成員数	27 年度	28 年度	補足					
団体	2	2						
人数	29	29						
18 市の補助金の財源	決算		予算		(千円)			
	27 年度	28 年度	29 年度	補足				
国・県支出金	0	0	0					
その他補助金	0	0	0					
一般財源	244	4	244					
合計	244	4	244					
19 団体・事業の財務内容	27 年度	28 年度	補足					
補助金								
助成金	市	244	4					
	その他	0	0					
事業収入	16	15						
会費(自己負担等)	20	0						
繰越金	9	14						
その他	0	100						
合計	289	133						
市の補助金の割合	84%	3%						

補助金名称	裾野市青年団体連絡協議会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-----------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	有	→	2見直した年度	H28	年度
3内容	補助対象経費、補助率を策定した。				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	△	活動が縮小してきた
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	△	主な事業はサンタクロース事業
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	団体の変革期であり、団体の事業を模索するうえで、補助が必要になる
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか(ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	△	すぐに効果等を測ることができない
⑩目的や目標を適切に設定できているか	△	目標値の設定が不明
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	裾野市青年団体連絡協議会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-----------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	△	今後も事業継続が必要なため
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確になっているか	○	
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	△	必要な参加費は集めている。
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	青年団体の交流による団体及び地域の活性化 【目標】構成団体3団体以上
2達成状況	東地区3団体と交流。共同で事業実施。

3補助効果の評価	b一定の効果をあげている
4評価の理由	団体交流、青年指導者の育成がおこなわれている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	b見直した上で継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	額及び補助対象事業内容
		見直しの時期	平成32年度内
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29 年度

1補助金名称	通学合宿補助金					2担当課名	生涯学習課		
3予算科目	款	10	項	5	目	1	事業コード	1058	
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無						
	開始	H17	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)	
5根拠例規の有無	有	例規名称 裾野市社会教育振興事業費補助金交付要綱							
6性質別分類①	d市単独助成				7性質別分類②	b事業費補助			
8交付先分類	c特定団体(その他)								
9交付先	東:東地区おやじの会								
10補助金の目的	青少年の健全育成								
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	小学生・中学生に対する集団行動や日常生活に必要な能力の向上 【目標】通学合宿実施団体:3団体以上								
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	通学合宿(2泊3日以上)もしくは防災体験合宿(1泊2日以上)								
13積算根拠の有無	無								
14積算の考え方 計算式	定額								
15補助対象経費の設定の有無	無								
16補助対象経費の内容	交際費		慶弔費		飲食費		懇親会費		積立金
その他補助対象の項目									
17団体等の構成員数	27 年度	28 年度	補足						
団体									
人数									
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)				
	27 年度	28 年度	29 年度	補足					
国・県支出金	0	0	0						
その他補助金	0	0	0						
一般財源	40	20	90						
合計	40	20	90						
19団体・事業の財務内容	27 年度	28 年度	補足						
補助金									
助成金	市	40	20						
	その他	21	70						
事業収入	93	84							
会費(自己負担等)	6	0							
繰越金	0	0							
その他	30	18							
合計	190	192							
市の補助金の割合	21%	10%							

補助金名称	通学合宿補助金	担当課名	生涯学習課
-------	---------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	有	→	2見直した年度	H28	年度
3内容	補助対象経費を定め、補助額を変更した。				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	市内青少年活動の活発化
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	△	基本的な実施は県補助。市補助は活動内容の充実
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか(ある→○、ない→×)	△	実施は可能だが、活動内容が縮小する。
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	△	すぐに効果等を測ることができない
⑩目的や目標を適切に設定できているか	△	目標値の設定が不明
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	通学合宿補助金	担当課名	生涯学習課
-------	---------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	△	単年度事業
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確になっているか	○	
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	小学生・中学生に対する集団行動や日常生活に必要な能力の向上 【目標】通学合宿実施団体:3団体以上
2達成状況	平成28年度3団体実施(内2団体は市補助を受けていない)

3補助効果の評価	b一定の効果をあげている
4評価の理由	市の補助金を利用することで、内容を充実させている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	b見直した上で継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	額及び補助対象事業内容
		見直しの時期	平成32年度内
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29年度

1補助金名称	裾野市婦人会補助金				2担当課名	生涯学習課							
3予算科目	款	10	項	5	目	1	事業コード	1059					
4現在考えている事業期間	終期設定の有無		無		開始		S46以前	年度	～	終期(予定)	—	年度	(終期設定有の場合のみ)
5根拠例規の有無	有		例規名称		裾野市社会教育振興事業費補助金交付要綱								
6性質別分類①	d市単独助成				7性質別分類②	b事業費補助							
8交付先分類	c特定団体(その他)												
9交付先	裾野市婦人会												
10補助金の目的	地域の女性同士の結びつきを強め、様々な分野で地域の中で活躍いただく												
11補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	女性の活躍による地域の活性化 【目標】婦人会行事を含む年間活動への延べ参加会員数 700人												
12補助対象者・団体等が補助金で行う活動	古着リサイクル 郷土を知る会 婦人スポーツ大会 ボランティア研修会など												
13積算根拠の有無	有												
14積算の考え方 計算式	事業費の1/2以内												
15補助対象経費の設定の有無	有												
16補助対象経費の内容	交際費	×	慶弔費	×	飲食費	×	懇親会費	×	積立金	×			
その他補助対象の項目	報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、賄材料費、役務費、使用料及び賃借料												
17団体等の構成員数	27年度	28年度	補足										
団体	5	5											
人数	624	572											
18市の補助金の財源	決算		予算		(千円)								
	27年度	28年度	29年度	補足									
国・県支出金	0	0	0										
その他補助金	0	0	0										
一般財源	1,152	1,152	1,152										
合計	1,152	1,152	1,152										
19団体・事業の財務内容	27年度	28年度	補足										
補助金	市		1,152	1,152									
助成金	その他		100	100									
事業収入	5,266	6,388											
会費(自己負担等)	123	120											
繰越金	303	322											
その他	15	92											
合計	6,959	8,174											
市の補助金の割合	17%	14%											

補助金名称	裾野市婦人会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-----------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	有	→	2見直した年度	H28	年度
3内容	新たに要綱を制定し、補助対象経費、補助率を定めた。				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	市内婦人活動の活発化。広く市民に還元されている。
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	○	
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか (ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	○	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	△	すぐに効果等を測ることができない
⑩目的や目標を適切に設定できているか	△	目標値の設定が不明
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	他の団体と同様な要綱を規定している。
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	他の団体と同様な要綱を規定している。

補助金名称	裾野市婦人会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	-----------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	△	今後も事業継続が必要なため
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	○	
③補助要綱で補助対象となる経費が明確になっているか	○	
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分の1以内になっているか	○	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	平成29年度会費を値上げした。
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	女性の活躍による地域の活性化 【目標】婦人会行事を含む年間活動への延べ参加会員数 700人
2達成状況	夏祭りやふれあい給食などによって、地域に活動を還元している。

3補助効果の評価	b一定の効果をあげている
4評価の理由	補助金を活用し、団体内部の結びつきを強め、委託をはじめとする事業で地域に還元されている。

(7) 今後の方向性

今後の方向性	b見直した上で継続		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	額及び補助対象事業内容
		見直しの時期	平成32年度内
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由		その他の内容	
廃止の時期			

補助金チェックシート

(1) 補助の内容

作成年度 29 年度

1 補助金名称	生涯学習フェスティバル実行委員会補助金				2 担当課名	生涯学習課						
3 予算科目	款	10	項	5	目	1	事業コード	1067				
4 現在考えている事業期間	終期設定の有無		無									
	開始	H20	年度	～	終期(予定)	H28	年度	(終期設定有の場合のみ)				
5 根拠例規の有無	無		例規名称		—							
6 性質別分類①	d 市単独助成				7 性質別分類②	b 事業費補助						
8 交付先分類	b 特定団体(市事務局)											
9 交付先	ゆうあいプラザ祭実行委員会											
10 補助金の目的	市民の活動成果発表の機会創出											
11 補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	生涯学習の推進 【目標】生涯学習センター年間利用者数73,200人											
12 補助対象者・団体等が補助金で行う活動	ゆうあいプラザ祭											
13 積算根拠の有無	無											
14 積算の考え方 計算式	定額											
15 補助対象経費の設定の有無	無											
16 補助対象経費の内容	交際費		慶弔費		飲食費		懇親会費	積立金				
その他補助対象の項目												
17 団体等の構成員数	27 年度	28 年度	補足									
団体												
人数												
18 市の補助金の財源	決算		予算		(千円)							
	27 年度	28 年度	29 年度	補足								
国・県支出金	0	0	0	H29より補助金から交付金へ変更								
その他補助金	0	0	0									
一般財源	100	50	0									
合計	100	50	0									
19 団体・事業の財務内容	27 年度	28 年度	補足									
補助金 助成金	市	100	50	イベント開催時に実行委員会を立ち上げて予算を立てるため、現時点では29年度予算は未確定。補助金ではなく交付金申請予定。								
	その他	0	0									
事業収入	42	49										
会費(自己負担等)	0	0										
繰越金	65	72										
その他	0	0										
合計	207	171										
市の補助金の割合	48%	29%										

補助金名称	生涯学習フェスティバル実行委員会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	---------------------	------	-------

(2)直近の見直しの状況(過去5年間)

1見直しの有無	無	→	2見直した年度	年度
3内容				

(3)基本的な視点からの評価

評価項目及び視点	適否	(△・×の場合のみ記入)理由・説明
【必要性】		
①目的・内容に、補助を行うに足りる公益性が認められるか	○	
②補助金目的が、開始時点と比べて希薄化していないか	×	生涯学習センターが、教養講座受講生とセンター利用者に学習成果の発表の場を提供するものであるため、補助金から交付金に変更。
③広く市民生活の向上に貢献するか	○	
④市民ニーズが高い事業か	○	
⑤補助金で行われている活動に対して、市が関与する必要性があるか	○	
⑥市が補助金を支出しなかった場合、多大なマイナスの影響があるか(ある→○、ない→×)	○	
【妥当性】		H29より交付金へ変更
⑦直接執行や委託等ではなく、補助金という手段が最適か	×	
⑧最適な補助対象か	○	
【有効性】		
⑨補助金額に見合う効果が十分に期待できるか	○	
⑩目的や目標を適切に設定できているか	○	
【公平性】		
⑪その他の団体や市民との間で公平性が保たれているか	○	
⑫交付先や補助金額は公平に決められているか	○	

補助金名称	生涯学習フェスティバル実行委員会補助金	担当課名	生涯学習課
-------	---------------------	------	-------

(5) ガイドラインの見直しの視点

評価項目	適否	(△・×の場合のみ記入)理由と今後の対応
①補助金の終期を設定しているか	○	H29より交付金へ変更
②積算基準を定めているか (前年踏襲になっていない)	×	定額交付
③補助要綱で補助対象となる経費が明確になっているか	×	H29より交付金へ変更
④補助対象経費に懇親会費、交際費、積立金等の補助対象として適当でない経費が含まれていないか	○	
⑤補助率の上限が、補助対象経費の2分の1以内になっているか	—	
⑥繰越金・積立金・余剰金・内部留保の額は適切か	○	
⑦類似した補助金はないか	○	
⑧自主財源の確保に努めているか (最低でも前年度の収入を確保しているか)	○	
⑨再補助(交付先が再補助)はないか	○	
⑩履行確認は、適切にできているか	○	

(6) 補助効果の検証

1補助金により期待される効果・目標 (アウトカム、アウトプット、具体的な数値等)	生涯学習の推進 【目標】生涯学習センター年間利用者数73,200人
2達成状況	生涯学習センター教養講座等各種団体の交流や成果発表の場となっている。

3補助効果の評価	b一定の効果をあげている
4評価の理由	毎年計画どおりに活動を実施しているため

(7) 今後の方向性

今後の方向性	c廃止する		
「a現行のまま継続」の場合		「b見直した上で継続」の場合	
継続の理由		見直しの内容	
		見直しの時期	
「c廃止する」の場合		「dその他」の場合	
廃止の理由	補助金から交付金へ変更	その他の内容	
廃止の時期	平成29年度		